

第 28回 ドイツ語教育研究ゼミナールを下記の通り開催いたします。多くの皆様の参加を心よりお待ちしております。

総合テーマ： Zur Rolle des Lehrwerks im DaF-Unterricht
- Überlegungen zu lerntheoretischen und methodisch-didaktischen Prinzipien sowie deren Umsetzung mit und ohne Lehrwerk

日程： 2024 年 3 月 11 日（月）～ 3 月 13 日（水）

招待講師： Claudia Riemer 教授
(Universität Bielefeld, Fakultät für Linguistik und Literaturwissenschaft, Deutsch als Fremd- und Zweitsprache)

会場： トーセイホテル&セミナー幕張
〒275-0024 千葉県習志野市茜浜2-3-2 (JR京葉線新習志野駅から徒歩2分)
<https://tosei-hotelseminar.co.jp/makuhari/>

参加費： 35,000 円
(日本独文学会会員の学生・院生, 非常勤講師の方には参加費補助を検討しています)

定員： 40 名

参加申込締切： 2023 年 12 月 15 日（金）

参加申込： <https://www.daf-seminar.jp> よりお申し込みください。

※参加は申し込み順に受け付けますが、最終的な選考は日本独文学会理事会で決定いたします。

※中国・韓国・台湾のゲルマニスト関連団体の方が申し込む際は、略歴および主要業績リストを提出してください。参加費は 35,000 円です。

※日本独文学会会員以外の方が申し込む際は日本独文学会会員（学生・院生の申し込みの場合は指導教員）の紹介が必要です。紹介者の氏名をお知らせください。また他に略歴、参加希望理由（ドイツ語で 150 語程度）、業績リスト（研究業績がある方）を申込時に提出してください。参加費は 45,000 円です。

ゼミナール内容：

DaF（外国語としてのドイツ語）の授業において、教科書は特別な役割を果たします。教科書は、その内容 やテーマ、活動、練習問題、説明、進行によって、実際の授業カリキュラムをしばしば決定する重要な枠組みや方向性を示しています。また、教科書はその都度最新の方法論および教育学的アプローチ（methodisch-didaktische Ansätze）や言語的／地政学的な動向（例えば、ヨーロッパ言語共通参照枠や移民）を取り入れており、常にその時代や教科書が発展した文脈を反映しています。しかし、授業の授業の質を決定するのは教科書のデザインではなく、教師が授業においてどのように教科書を扱うか、つまり、教師と授業方法、態度と行動であることは明らかです。

本ゼミナールでは外国語習得研究の動向について概観し、DaF授業の一般的な方法論および教育学的原則（例えば、行動中心[Handlungsorientierung]、自律学習[Lernenden-autonomie]、タスク中心[Aufgabenorientierung]、インターアクション中心 [Interaktionsorientierung]）と結びつけながら、以下のような疑問について共に考えてゆきます。

・ DaF教科書やその（さらなる）発展において、学習理論的、また方法論および教育学的な観点からどのような期待があるのか。

- ・教師が教科書を選ぶ際には、どのような選択の余地があり、それをどのように活用できるのか。
- ・日本の大学ではどのようなDaF教科書が使用され、どのような経験があるのか。
（例えば、必要不可欠な調整など）。
- ・教科書の使用は、どのようなプラスとマイナスの「副次的効果」をもたらすのか
（例えば、学習意欲、感情、インプットコントロールなど）。
- ・DaF授業の準備と実施の際に、教科書はどのような役割を果たすのか。
- ・補助的にどのような代替教材が考えられるか。
- ・将来的に、教科書はどのような役割を果たしうるか。

本ゼミナールは、最新の学習理論や教授法の発展を背景に、教科書に関する知識を深め、授業の準備、実施、評価におけるDaF教科書の扱い方を決定づける言語教授法アプローチについて考えを深めたい方を対象としています。また本ゼミナールでは、教科書の使用についての考察を促し、学習者のニーズに合わせて柔軟に使用できるリソースとして教科書を捉えることを推奨します。

招待講師として、Bielefeld大学のClaudia Riemer 教授をお招きします。Claudia Riemer教授は Deutsch als Fremd- und Zweitspracheをご専門としております。教員養成（とりわけ教師の専門化）の分野において、言語教育・学習研究、DaF/DaZの教授法（特に授業原理・相互作用）、実証的外国語研究（質的研究）における研究の方法に関する理論に研究の焦点を当てています。Hamburg大学にて教育研究のHabilitationを修了後、2002年にGert Henrici氏の後任として招聘されました。現在の研究プロジェクトは“Internationale Motivationsforschung DaF”と“die Professionsforschung Deutsch als Zweitsprache”です。

（参考URL：https://ekvv.uni-bielefeld.de/pers_publ/publ/PersonDetail.jsp?personId=73152

ORCID-ID: <https://orcid.org/0000-0003-1064-227X>)

参加者が互いに自らの体験について意見を交換し合い、ご自身の授業実践を見直すきっかけを促すこともまた本ゼミナールの目的です。DaF分野の専門知識は必ずしも必要ではございませんので、どの研究分野の方にもご参加いただけます。過去に教授法ゼミナールにご参加されたことのない方もどうぞ奮ってお申し込みください。なお、現在託児の手配を予定しております。お子様連れでご参加される場合には、お申し込みの際に同伴されるお子様の人数をお知らせください。

ゼミナール中に、テーマに関連する研究発表（ドイツ語で15分）をご希望される方は、参加申し込みの際に「研究発表希望」と記し、発表題目と発表要旨（ドイツ語で250語程度）を添付してください。発表者の最終決定は実行委員会にご一任ください。

なおゼミナール当日の時間の都合上、開催2週間前までに発表動画をご準備いただき、ゼミナール当日は動画視聴を前提としたディスカッションのみ行う可能性もございます。あらかじめご了承ください。

第28回ドイツ語教育研究ゼミナール実行委員会：

Maria Gabriela Schmidt（実行委員長）、Carsten Waychert, Elvira Bachmaier, 齋藤正樹, Nancy Yangita, Nina Kanematsu, 牛山さおり, 小池駿, 武井佑介

お問い合わせ先：daf2024-open_AT_jgg.jp（_AT_には@を入れてください）